

釣りの随想…②

浦戸湾八陣

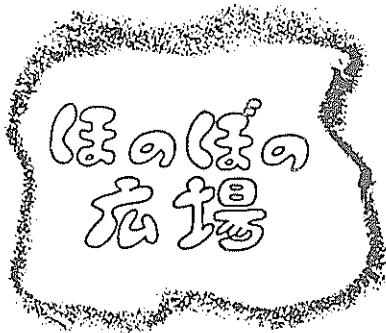
浜田広信 (植田)

趣味

次に直接、釣りの話ではないが、前回「釣りの歴史」で書いた山内容堂公の釣り好きは有名であった。釣りの師匠でもあり従者であった去戸直馬氏を連れ、浦戸湾でチヌ釣りを楽しんだ。

公の政治生命は慶応三年(一八六七)十月、大政奉還を建白し、將軍慶喜公の政權を朝廷に返上させた業績を最後に殿様の政治は終わり、世は明治となった。

公は土佐へ帰り、魚釣りさんま。それに去戸直馬氏がギリ竿を



発明し、従来の手釣りから竿釣りに変わり興味も更に深かったと思ふ。

公の第二の釣りの従者は大野勇さん(元高知市長、高知の釣文化の著者)、浦戸湾における釣りのプロ。高知城下の奉行といふところ。釣りながら行政を進行、そして浦戸湾六陣を唱えた。

六陣とは、ニロギ釣りの一陣。鴨の群れを一陣。それに投網の回し打ち一陣など。ところが世の中は六では縁起がよくない。なんでも八にせねば。それで私が二陣を加えて八陣とする。

すなわち夏から秋にかけてのスズキの夜釣り。月光の下、各舟が赤々と灯を照らし、潮の流れに沿って大勢の舟が港口付近で上下するのは壯観。特に秋の終わりに、ゴカイが寒さのため浮いて湾に流れ込む。入魚といつて外洋からスズキがそれを食いに来る。

このときの釣りはみごとなもの

で何百艘という舟が集まり御嶽瀬前付近に競い合い、源平の舟合戦を思わす。舟の舷と舷とが触れ合い、義経の八艘飛びどころか素人でも十艘飛びができる。

スズキが食いつき隣の舟の糸もつれ合い、双方とも魚があつた気持ちになる。そのときは早く引き寄せてすくった者が勝ち。取つたり取られたり、だれも惜しくはなし。糸を投げ込めばすぐ食いつく。一晩に何十尾も釣れる。それに入魚のスズキは、やせて脂がなくあまりうまくもない。餌はこのときに限りゴカイ。素人、プロじやいふ区別なし。だれでも釣れる。これが一陣。

次に二陣だ。秋から冬にかけての子ヌ釣りの舟の群れ場所は、御嶽瀬の病院前、長浜川尻から港口浦戸にかけて集る。これはスズキと反対に航行に必要程度の光を照らし、静かに釣る。騒ぐとあたりが悪い。寒いので大体プロの釣りがだ。大物があたる。餌は大形のゴカイ。これが第二陣。合わせて八陣とする。

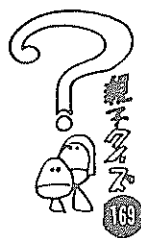
世の中はなんでも八が縁起がよい。お釈迦様は人生とはなにかの哲理に対し八正道を説き、弘法大師は八十八箇所を開き、坂本龍馬は船中八策を進行して無血革命を築く、魚釣り師と相撲取りも都合の悪いときはほうそ八百、東条大将は十二月八日を選び「米英と戦争状態に入れり」と叫んだが、これは失敗に終わった。など。

第三の公の従者はこの私。釣りながら公の警備に当たつた助さん、格さんほど偉くないが、二十年警察で剣道で鍛え、少しは腕に覚えがある。それに天皇陛下及び閣院の宮帳の警備に当たり、記念のメダルと菊の御紋章入りのたばこをいただいた事例があり、幕末の殿様の警備にもつてこの私である。(つづく)



『ほのぼのの広場』に、あなたの身の回りのほのぼのとした話題や我が家の自慢料理、読書の感想など、お気軽にご投稿ください。

▼投稿先・〒783 南門市大浦甲1三〇一 南門市役所内広報委員会まで。



ご家庭で話し合せて答えてください。答えは、この広報に出ています。

■もんだい・今年も南門市子ども会連合会の○○○○○隊が市内の小学校などを訪問しました。

■しめきり・3月15日

■あて先・〒783 南門市大浦甲1三〇一 南門市役所内広報委員会親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所氏名、年齢、職業を書いてください。

■賞品・正解者の中から、抽選で五人に図書券を進呈。

第168回当選者発表(敬称略)

(応募総数55通)

■答え・①百人

■当選者五人

松岡敏子(稲生)

土居善子(里改田)

中屋かおり(片山)

小沢 浩(岡豊町)

吉田小夜子(岡豊町)